

図書館新聞 2024年4月号



『日本語のゆたかさがぐんぐん身につく子どもオノマトペ辞典』

たけだ こうこ かんしゅう たや みつひろ ごうどうしゅつぱん
竹田 晃子/監修 多屋 光孫/イラスト 合同出版 (K814こ)

「オノマトペ」とは、「ふわふわ」「ぎらぎら」といった動きやじょうたいのようすを言葉で表した<擬態語>や、「わんわん」「がらんがらん」「ちゃりん」といった、音や声をまねた<擬音語>のこと。身のまわりでよく使われるオノマトペ354語を、たのしいイラストとともに紹介します。



『ぼくの町の妖怪』

のいずみ たか こくどしゃ
野泉 マヤ/作 TAKA/絵 国土社 (K913)

最近、近くの空き家に若い男の人がひっこしてきた。その人は妖怪の研究をしているんだって。天狗とか河童とかを見てみたいと思っていたぼくは、いっしょに妖怪調査に行くことに…。

町にひそむさまざまな妖怪たちを調査していく6つの物語がのっています。



『アラン・チューリング』

まつお ゆたか かんしゅう おさだ かおる かどかわ
松尾 豊/監修 長田 馨/まんが作画 KADOKAWA (K289ち)

幼いときから独特な考え方をもっていたアランは、優秀な数学者へと成長し、第二次世界大戦時は暗号解読で功績を上げる。そして、「機械は知性をもつか」を考えはじめ…。コンピュータの父であり、AIの父でもある天才数学者アラン・チューリングの一生を、まんがで紹介する。



『歩く。凸凹探偵チーム』

ささき しほみ かどかわ
佐々木 志穂美/作 よん/絵 KADOKAWA (K913サ)

朝はハロハロの理人、自閉症のアルク、友だちゼロの桐野、声が小さすぎる五木、やる気が暴走するオヅ…。みんなの凸凹を生かすと、真実が見える!?

新聞をきっかけに集まった、個性的なメンバーでナゾを解く、全員主役のミステリー。



休館日 ☆図書館 4月1日(月) ☆公民館図書室 4月1日(月)・10日(水)

守谷中央図書館 〒302-0116 守谷市大柏937-2 電話:0297-45-1000